

不登校対策チェックリスト15

次の15のチェック項目について、自校の状況を確認してみましょう。

★ 3点：しっかり取り組めた	★ 2点：おおむね取り組めた
★ 1点：少しは取り組めた	★ 0点：取り組めなかった

概要	番号	チェック項目	評価
組織的対応	1	学校の不登校対策や支援の在り方等について、年間計画やマニュアル等を作成するなどして、全教職員で共通理解を図っている。	
	2	不登校対策担当者や登校(別室)支援員が、各々の役割を理解しているとともに、他の教職員もその役割を認識している。	
	3	年度当初に、「支援対象者リスト」を活用して支援対象児童生徒をリストアップし、定期的(月1回程度)な更新と全教職員での共有を行っている。	
	4	学期に1回程度、不登校対策委員会等を開催し、新たに支援が必要な児童生徒の把握など、支援対象児童生徒の見直しを行っている。	
情報共有	5	対象児童生徒について、当日の登校状況や家庭連絡の有無、その時間の居場所等が ホワイトボード等により、すぐに確認できる。	
	6	対象児童生徒について、登校時や別室等での様子が(例えば支援員から)担任へタイムリーに伝わるようになっている。	
	7	対象児童生徒について、支援日誌等により、支援内容や本人の様子が整理され、日々の回覧や週1回程度の情報共有ができるようになっている。	
ケース会議・専門家との連携	8	2~4週に1回程度、開始と終了の時刻を決めて、少人数の関係者で行う支援チーム会議等を行い、支援状況の確認や見直しをしている。	
	9	SCやSSW、関係機関にケース会議へ参加してもらうなど、専門家や関係機関と積極的に連携を図っている。	
	10	ケース会議では、「アセスメントシート」や「ステップアップ支援シート」を活用している。	
	11	ケース会議で決定した支援方針・内容は、担任など各支援者の抱え込みを回避し、持続可能な支援となっている。	
教職員研修・家庭との連携	12	不登校の理解や支援方法等について、年に1回は教職員研修を行っている。	
	13	学校の不登校に関する取組(家庭連絡・家庭訪問、別室指導、教育相談日やSC・SSWの紹介等)を保護者に発信し、家庭との連携を図っている。	
取組の検証・引き継ぎ	14	年度末にかけて、本年度の不登校対策の検証を行い、次年度に向けた改善案を検討している。	
	15	次年度に向けて、支援対象児童生徒ごとに支援の経過と現在の状況をまとめ、次年度当初の支援方針と合わせて、関係教職員に引き継いでいる。	